

令和4年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価 概要（全体）

山県市公共交通会議

平成20年 5月22日設置

平成30年 1月19日 山県市地域公共交通網形成計画策定
(計画期間：平成30年 4月～令和 6年 3月)

令和 3年 6月29日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

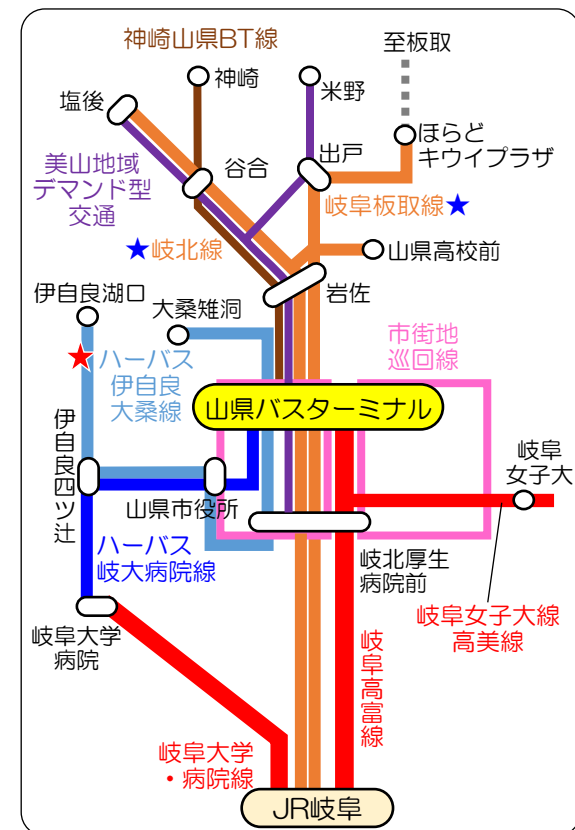
1. 【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

(1) 山県市の公共交通

- 人口：25,661人（令和4年1月1日現在）
- 市内に鉄道駅なし、バス営業所1社、タクシー事業者1社あり
- 公共交通の主体はバス。令和3年6月1日に市の公共交通の中心となる**山県バスターミナルがオープン**
- 地域間幹線系統：岐北線、岐阜板取線(地域間幹線系統補助路線)
- 市自主運行バス：岐北線、岐阜板取線、**ハーバス伊自良・大桑線(フィーダー系統補助路線)**、
ハーバス岐大病院線、市街地巡回線、神崎山県BT線、美山地域デマンド型交通

(2) 山県市地域公共交通網形成計画（H30～R5年度）

- 策定の背景：バスターミナルを新たに整備することで変更となる交通拠点に対応した**公共交通網の再編**
- 基本方針：どの世代においても住みよい、便利で快適なまちを実現する地域公共交通体系の構築
- 目標：
 - ①多様なニーズ・需要に応じたサービスの提供
 - ②まちづくりと連携した、新バスターミナルを拠点とするネットワークの構築
 - ③誰もが分かりやすく、安心して利用できる公共交通の充実
 - ④多様な主体の連携により、地域全体で公共交通を支える体制の推進
- 主な重点事業：
 - ①**バスターミナル整備事業**
 - ②ターミナルを拠点とした**路線再編事業**
 - ③**利用促進事業**
 > 企画乗車券の発行、教育の場での活用



2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組（1）

①【バスターミナル整備事業】

● パークアンドバスライド

高速道路高架下に**無料駐車場を整備**した。
⇒自動車44台/日、自転車等44台/日の利用があり、バス利用者獲得につながった。

● ラッピングバス運行

山県バスターミナル利用促進のために、岐阜高富線等を運行する**車両1台をラッピング**した。
⇒運行頻度の高い路線のため、市内外にバスターミナルを周知できた。



②【路線再編事業】

● 新規路線運行（R3.6～）

市自主運行バスを**全線バスターミナルを通る路線**に路線再編した。
⇒各路線で乗継しやすいダイヤとした。

● 新規路線の拡充・周知

・地域の要望を受け、美山地域デマンド型交通の**運行エリアを拡大**し、自治会回覧で周知した。
⇒拡大エリアで119名（R4.7～11）の利用があった。また、バス停カバー率も向上した。
・利用が伸び悩んでいる市街地巡回線の沿線29自治会に対し、自治会回覧で周知し、バス利用を促した。

谷合地区（九合、平、七石、三日月）にお住まいの皆様

谷合地区（九合、平、七石、三日月）に美山地域デマンド型交通が走ります

令和3年6月1日より運行を開始している【美山地域デマンド型交通】について、令和4年7月1日から新たに公共交通空白地である谷合地区（九合、平、七石、三日月）をマイバス停設置可能エリアに追加する試験運行を開始します。

●乗車するには、利用者登録が必要です。
●乗車するには、予約が必要です。

登録や利用方法についてご不明な点等がありましたら、山県市社会福祉協議会までご連絡ください。

電話番号（0581）23-1511

注意事項

試験運行期間中は、予約受付期間を変更して運行します。
・1便 利用希望日4日前～ 利用希望日前々日の17:00まで
・2便以降 利用希望日4日前～ 前日17:00まで

お問い合わせ先
案内について 山県市社会福祉協議会 電話：(0581) 23-1511
公共交通全般について まちづくり・企業支援課 電話：(0581) 22-6831

③【利用促進事業】

● 保育園・小学校のイベント利用

市内保育園（※雨天により中止）及び岐阜市立小学校の**校外学習**でハーバス伊自良・大桑線（★フィーダー系統補助路線）、ハーバス岐大病院線を利用
⇒園児16名（予定）、児童35名が利用し、次世代のバス利用のきっかけとなった。

● 企画乗車券の発行

岐阜バス発行の平日昼間時間帯乗り放題になる「昼得きっぷ」、土日祝日乗り放題の「ホリデーパス」について、岐阜バスが運行する**自主運行バスでも利用できる**ようにした。
⇒市内でR3約500件、R4（12月中旬まで）約430件の利用があり、利用者獲得につながった。

調査事業の実施状況（★地域公共交通調査事業）

調査種別	対象	実施概要
データ分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーバス伊自良・大桑線 ・ハーバス岐大病院線 ・市街地巡回線 ・美山地域デマンド型交通 ・神崎山県BT線 	令和3年10月～令和4年9月の日報から、便別やバス停別利用者数、バス停間通過人数等を分析
乗降調査	ハーバス伊自良・大桑線 ハーバス岐大病院線	11月28日(月)～12月3日(土) ODと利用者属性（性別・年齢・職業）を調査
ヒアリング調査	ハーバス伊自良・大桑線、ハーバス岐大病院線の利用者	バスの利用目的や路線再編に対する評価、新規路線の認知度等を調査
	山県バスターミナル、岐北厚生病院、商業施設2店舗	バスの利用目的や路線再編に対する評価、新規路線の認知度、バスターミナル利用状況・満足度等を調査 回答数 808票
アンケート調査	市内在住の高校2年生	ふだんの通学方法、バスに対する改善要望等 回答数 92票（回収率40%）
	市内中学校3校に通う中学2年生	公共交通を利用して通学する際の抵抗、改善要望等
カウント調査	山県バスターミナルの駐車場、駐輪場利用者	12月5日(月)実施 山県BTでのP&BR、C&BRの状況を調査

これらの調査結果（結果は集計中）をもとに、次年度に【**山県市地域公共交通計画**】を策定予定。

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

評価指標 ★フィーダー系統補助路線 ★地域間幹線系統補助路線	再編内容	達成状況			目標値 (R5)	考察
		R2	R3	R4		
岐阜板取線★	継続	36,981	↘ 34,310	↗ 37,806	✖ 44,000	岐北線は、平日昼間を美山地域デマンド型交通、神崎山県BT線に変更した影響もあり減少。美山地域関連路線の総乗車人数はR3よりも増加。
岐北線★	平日減便	87,500	78,020	73,813	110,000	
乾乗合タクシー	廃止	864	721	—	—	
美山地域デマンド型交通	新設	—	1,443	5,367	2,500	
神崎山県BT線	新設	—	2,263	7,113	(2,500)	
美山地域 計		88,364	↘ 82,447	↗ 86,293	✖ 112,500	ハーバス伊自良・大桑線は、R3よりも減少しているが、1便あたりの乗車人数は増加（R3:3.0→R4:3.2人）。 市街地巡回線は、計画策定時よりもサービスレベルが低いこともあり大幅に下回っている。
ハーバス大桑線★	廃止	6,360	3,724	—	28,000	
ハーバス伊自良線★	廃止	14,825	9,729	—		
ハーバス伊自良・大桑線★	統合(減便)	—	5,023	13,283		
ハーバス伊自良・大桑線 計		21,185	↘ 18,476	↘ 13,283	✖ 28,000	
ハーバス岐大病院線	新設	—	1,308	↗ 4,375	✖ 5,000	
市街地巡回線	新設	—	1,011	2,836	✖ 10,000	
全路線 計		146,530	↘ 137,552	↗ 144,593	✖ 199,500	
乗車1人あたりの運行経費 (円/人)		1,291	↗ 1,431	↗ 1,451	✖ 800	乗車人数の未達成、運行経費上昇で 未達成
1便あたりの乗車人数 (人/便)		5.7	↘ 4.2	↗ 4.8	✖ 6.0	R3よりは改善しているが 未達成

4. 【Act】 計画目標の達成に向けた今後の取組方針

計画目標の現在の到達点 (目標の達成状況・課題の分析)	今後の取組み方針
<p>【美山地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 美山地域デマンド型交通と定時路線の神崎山県BT線があることで、年齢層や利用形態等によりうまく使い分けがされ、想定以上の利用がある。 既存路線の岐北線は昼間時の減便もあり、減少傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 定時路線区間でデマンド化の希望も一部寄せられていることから、地域の意見を踏まえながら、平日昼間の美山地域全体のデマンド化を検討する。 岐北線は、次期計画において目標値の見直しを検討する。また、通勤、通学での利用PRを検討し、実施していく。
<p>【高富・伊自良地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街地巡回線の利用が多いバス停は、既存バス路線の停留所が遠い地区、高低差の大きい団地内など限定的。 利用の多いバス停が点在しており、路線で繋ぐと既存路線との重複なども多い。 ハーバス伊自良・大桑線、ハーバス岐大病院線は代替公共交通機関はなく、移動制約者にとって必要不可欠。他路線と比べ、買物、通院利用だけでなく通勤、通学での利用も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地巡回線は、運行形態の見直しや路線のスリム化等も踏まえ、効率的かつ利便性の高いサービスを検討する。 自治会回覧等を活用し、地元へPRする。 ハーバス伊自良・大桑線、ハーバス岐大病院線は、利用者アンケートや住民懇談会等の地域の意見を踏まえながら、ルート再編を検討し、利便性の高い路線を目指す。
<p>【運行経費の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一定の運行経費の増加は、情勢の変化(人件費・燃料費の高騰等)としてやむを得ないが、1便あたりの運行経費は年々増加傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 路線の利用状況を確認し、路線のスリム化を検討する。 ガイドブックの発行や地元への周知活動等の利用促進策により利用者増を図る。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	利用者数の把握や利用者・住民向けのアンケートの実施により路線再編の効果を把握し、継続的な見直しが行われることに期待	路線再編後1年が経過したため、市自主運行バスの利用者意見等の調査を実施	調査結果を踏まえて、路線の再編・見直しや次期計画作成に反映予定
	路線再編後の利用者数が芳しくない路線については、地域住民との懇談会などを通じて、再編内容を繰り返し周知するとともに、バスターミナルやバス停の乗り換え環境の改善を検討	利用者数が伸び悩む市街地巡回線の沿線自治会に対し回覧文書で周知を実施 主要バス停でのバスの利用者意見等の調査を実施	調査結果や利用状況等をもって、来年度地域懇談会を開催予定 また、路線再編の認知度向上のため、定期的に広報等での周知を継続実施していく
前々回	路線再編に向けた地域バス調整会議での住民意向の確認、意向反映のための関係者間における協議について評価	—	再編路線の利用状況等を踏まえ更なる改善を行う際は、地域バス調整会議を開催し住民意向を極力を反映した形を目指す
	再編路線がまちづくりと連携し、バスターミナルを拠点としたネットワークが機能しているか、ハーバス大桑線・伊自良線等の利用者増に結び付いているか検証	1月公共交通会議において、再編後4か月間の利用状況を整理	次期地域公共交通計画策定に向けて、来年度乗降調査等を実施。 バスターミナル整備や路線再編による利用の変化等を把握する予定
	神崎方面のデマンド化の見送りを踏まえ、網計画との整合を図るための見直しが必要	—	今回は見送ったが、将来的には、美山地域全体のデマンド化を目指していく
	再編により路線によっては大きな変更もあるため、利用者への事前周知	地域バス調整会議、公共交通ガイドブック発行、ケーブルテレビ等でも周知	左記の周知の継続に加え、地域ごとに主な目的地への行き方を整理したチラシを作成する

※前回：令和4年3月10日、前々回：令和3年3月1日

6.計画・評価の推進体制

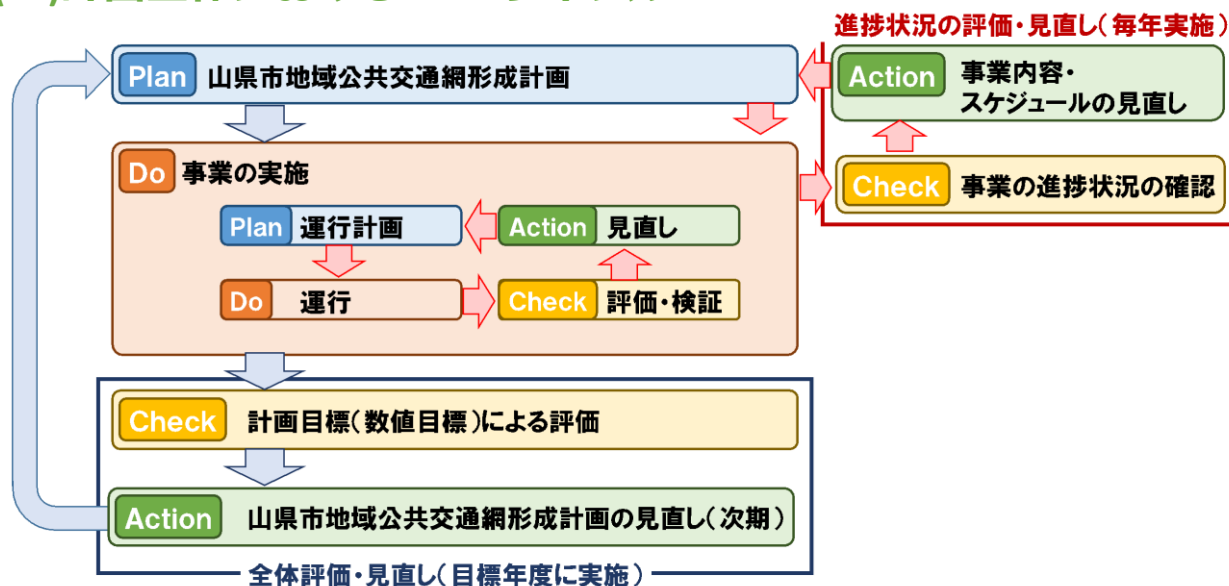
(1) 評価項目と実施時期

区分	実施主体	評価スケジュール						
		H30	H31	H32	H33	H34	H35	
公共交通の利用状況	年間乗車人数	市・交通事業者	■	■	■	■	■	■
	利用者1人あたりの運行経費	市・交通事業者	■	■	■	■	■	■
	1便あたりの乗車人数	市・交通事業者	■	■	■	■	■	■
交通結節点の利用状況	バスターミナルの乗降者数	市・交通事業者	-	-	■	■	■	■
	パーク&バスライド利用者数	市	-	-	■	■	■	■
	サイクル&バスライド利用者数	市	-	-	■	■	■	■
公共交通に対する意識	バスヘルパー登録者数	市民・市	■	■	■	■	■	■
	モビリティマネジメント(体験乗車会及び勉強会等)参加者数	市・市民・交通事業者	■	■	■	■	■	■
市民意識の醸成	地域バス調整会議等の開催回数	市民・市・交通事業者	■	■	■	■	■	■

【公共交通会議の実施状況】 令和3年度

- 第1回会議 6月29日
【主な議題】
 - ・バスターミナル概況
 - ・確保維持計画
 - ・回数券利用範囲拡大
- 第2回会議 1月20日
【主な議題】
 - ・通学定期運賃の制度変更
 - ・事業評価

(2) 計画全体におけるPDCAサイクル



令和4年度

- 第1回会議 6月28日
【主な議題】
 - ・確保維持計画
 - ・新規路線利用状況
- 第2回会議 1月19日
【主な議題(予定)】
 - ・事業評価
 - ・調査結果速報

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月19日

協議会名： 山県市公共交通会議

評価対象事業名： 地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
岐阜乗合自動車(株)	<p>ハーバス伊自良・大桑線 大桑雉洞～伊自良湖口 (平和堂・イオンビッグ・山県グリーンポート経由)</p> <p>ハーバス伊自良・大桑線 大桑雉洞～伊自良湖口 (幸報苑・平和堂・イオンビッグ・山県グリーンポート経由)</p> <p>※車両減価償却費等に係る補助あり</p>	<p>・路線再編の周知のため、ラッピングバスの運行やガイドブックの作成・配布、回覧等を行った。</p> <p>・路線再編による影響や評価等を把握するため、ハーバス車内や市内主要施設においてヒアリング調査を実施した。</p>	A 事業は、計画に基づき適切に実施された。	<p>【目標】年間乗車人数 目標値: 27,500人 実績: 13,283人</p> <p>ハーバス伊自良・大桑線全体の利用者数は13,283人であり、目標値を大きく下回った。目標値設定時に比べて減便していることに加え、路線再編の周知不足やハーバス岐大病院線への転換などの影響があると考えられる。しかし、R3よりも1便あたりの乗車人数は増加している。</p>	<p>・路線再編の内容の周知や企画乗車券の発行等を継続して実施する。</p> <p>・利用者ヒアリングや住民懇談会等において、具体的な改善要望等も出ていることから、必要に応じてルート再編等の見直しを検討する。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年1月19日

協議会名:	山県市公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>山県市は、岐阜市の北側に隣接し、JR岐阜駅及び名鉄岐阜駅から約9～34キロメートルと南北に広範に広がり、北部の山地・過疎地と南部の平たん地・都市部のように地区によって地理的条件が大きく異なっている。</p> <p>市内には鉄道がなく、自動車を利用できない市民にとっては、バスが日常生活になくてはならない交通手段となっている。しかし、利用者の減少による営業路線の撤退や自主運行バスの路線維持費の増加が懸念されている。また、バス停から離れた集落が各地に点在し、このような公共交通不便地区の解消が課題となっている。</p> <p>そのため、『どの世代においても住みよい、便利で快適なまちを実現する地域公共交通体系の構築』を基本方針として、通勤・通学、買い物や通院などの利用者ニーズを反映した、利用者の視点に立った利用しやすい生活交通を確保することを目的として、生活交通ネットワークの構築を進めている。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和5年1月19日

協議会名: 山県市公共交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C評価 【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】
<p>事業内容</p> <p>①地域特性等の整理 ②市民ニーズ等の把握 ③公共交通の現状分析 ④公共交通会議開催 ⑤次期計画の骨子案作成</p> <p>■結果概要</p> <p>①令和2年度国勢調査から、人口や高齢化率、通勤通学流動等の変化を把握した。 ②高校生アンケートより、通学での公共交通の利用状況やバスへの印象、改善要望等を把握した。(中学生アンケート、意見交換会は2～3月頃実施予定) ③日報データや乗降調査等から便別バス停別乗降者数、OD等の利用実態を把握した。またヒアリングから移動や公共交通の利用実態、路線再編への評価等を把握した。 ⑤上記調査結果等より、次期計画の骨子(案)を作成予定。</p>	A 事業は適切に実施されている。	<p>■補助対象事業名 令和4年度山県市地域公共交通計画調査・分析業務</p> <p>■事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特性等の整理 令和2年度国勢調査から、人口や高齢化率、通勤通学流動等の変化、公共交通カバー率などを整理。 ・市民ニーズ等の把握 中学生・高校生アンケート、市民意見交換会を実施。 ・公共交通の現状分析 日報データ、ICカードデータの整理。 利用実態把握のため、乗降調査やヒアリング調査を実施。 ・公共交通会議開催 交通事業者、有識者、市民等で構成する公共交通会議を開催 <p>■実施時期 令和4年6月2日～令和5年3月31日(予定)</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年1月19日

協議会名:	山県市公共交通会議
-------	-----------

評価対象事業名:	地域公共交通調査事業
----------	------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>令和3年6月に新たに山県バスターミナルが開設されたため、市外への移動者は、山県バスターミナルへ行くことで容易に市外へ行くためのプラットフォームができることとなった。そのため、山県バスターミナルと市外を結ぶ路線の効率的で利用しやすいネットワークを構築し、また、本市内の高齢化率が高い現状を鑑みて、市内間での円滑な運行ができるようなネットワークを構築することを目的として、上位計画や関連計画との整合を図りつつ、地域の公共交通網計画を策定する。</p> <p>計画策定のためには、現在の公共交通網形成計画での実施事業である公共交通の再編事業を評価、分析する必要がある。再編した路線の利用状況を鑑みて、再度の運行路線の調整を実施し、より持続可能な公共交通を目指す必要がある。また、令和6年度に東海環状自動車道の西周りが開設される予定であるため、高速道路を活用した路線等の検討、検証を実施するために、公共交通利用者の意見を収集する必要がある。現在の利用状況の把握と共に、今後の本市の公共交通ネットワークの構築を実施するために策定調査を実施する必要がある。</p>
-----------------------------	---